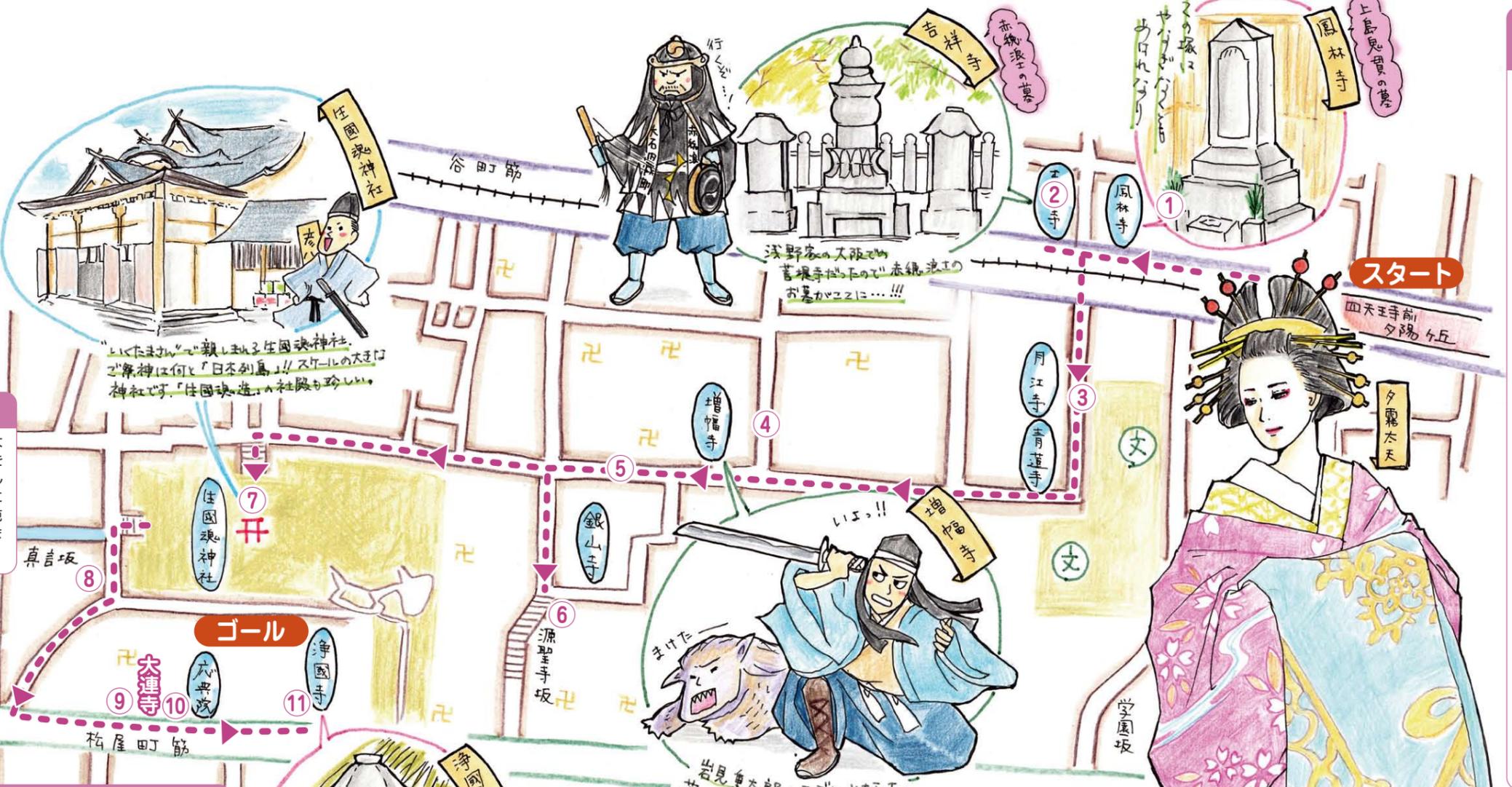


類なき御傾城・夕霧太夫が眠る上町台地

～この塚は柳なくとも哀れなり～

大阪の聖地・上町台地。約200もの寺社仏閣が集積する、我が国でも有数の一大宗教スポットで、いくつものドラマ、物語が秘められたエリアですが、このまち歩きは、井原西鶴の「好色一代男」において「神代このかた、また類なき御傾城の鏡」とまで絶賛された夕霧太夫を偲ぼうというものです。若くして亡くなった夕霧を惜しんだ句「この塚は柳なくとも哀れなり」を詠んだ俳人・上島鬼貫の墓から、西鶴ゆかりの地・生國魂神社などを経て、いまも献花が絶えない、夕霧が眠る浄国寺までを巡ります。美しく哀しい天下一の太夫の面影を求めて…。

大阪は「まち」がほんまにおもしろい



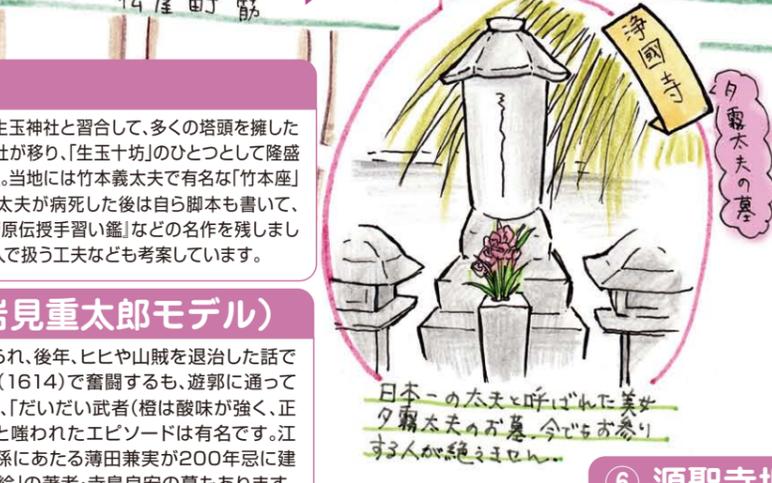
1 鳳林寺(上島鬼貫墓所)
天正16年(1588)、存芸和尚によって開基しました。大坂城代の菩提寺で、永平寺より常恒会地という格式を与えられて、畿内における曹洞宗第一の道場でありました。上島鬼貫は伊丹の醸造家に生まれ、25歳で大坂に出て三池藩などに経済担当として仕えました。「東の芭蕉、西の鬼貫」と併称されたほどの俳人でしたが、あくまで孤高を堅持し、門人を持つことはありませんでした。

2 吉祥寺(赤穂浪士の菩提寺)
浅野家の大坂の菩提寺です。藩主・浅野長矩侯より東京の泉岳寺と同じ山号「万松山」を与えられ、参勤交代等では必ず立ち寄り、多くの義士達も訪れました。赤穂浪士の墓は足輕故に切腹を許されなかった寺坂吉右衛門が全員の頭髪や爪などを持ち帰って供養したものと伝われます。毎年12月14日には子供たちが衣装を着て「義士祭」が行われます。近年、四十七士一人一人の像が作られました。

3 青蓮寺(竹田出雲墓所)
聖徳太子が鴨野の地に創建した法案寺が前身です。のちに生玉神社と習合して、多くの塔頭を擁した畿内屈指の大寺でした。秀吉の大坂城築城のさいに生玉神社が移り、「生玉十坊」のひとつとして隆盛しましたが、明治初年の神仏分離の令によって分散しました。当地には竹本義太夫で有名な「竹本座」の経営者・竹田出雲と竹田一族の墓があります。近松や義太夫が病死した後は自ら脚本も書いて、「小野道風青柳」(仮名手本忠臣蔵)「双蝶々曲輪日記」(菅原伝授手習い鑑)などの名作を残しました。また正面にあった太夫の床を側面に移したり、人形を3人で扱う工夫なども考案しています。

4 増幅寺(薄田隼人墓所=岩見重太郎モデル)
薄田隼人は、大坂城一の怪力の持ち主であったと伝えられ、後年、ヒビや山賊を退治した話で有名な岩見重太郎のモデルとなりました。大坂冬の陣(1614)で奮闘するも、遊郭に通っている最中に岩を徳川方に陥落されるという失態を犯し、「だいたい武者(橙は酸味が強く、正月飾りにしか使えないので、見かけ倒しを意味する)」と嘲われたエピソードは有名です。江戸時代の富豪で有名な天王寺屋は末裔で、墓は6代子孫にあたる薄田兼光が200年忌に建立しました。江戸時代を代表する百科事典「和漢三才図絵」の著者・寺島良安の墓もあります。

5 銀山寺(心中宵庚申・八百屋半兵衛と妻お千代)
天正19年(1591)創建。当時は大福寺といいましたが、秀吉が中国の金山寺に負けず劣らずとのことで、「寶樹山 銀山寺」と命名しました。その由縁で、雨宝童子立像(太閤秀吉の守り本尊)があります。また豊臣秀吉画像(狩野山楽筆)や豊臣秀吉朱印状(九州攻めの時の命令書)などが伝えられていますが、現在は大阪城に保管されています。お千代・半兵衛の比翼塚がありますが、2人の心中事件は近松門左衛門の「心中宵庚申」のモデルとなりました。非常に珍しい夫婦心中の話で、紀海音も「心中二ツ腹帯」の題で競演を挑んでいます。心中当時、お千代は身重で、5ヶ月の胎児がいましたが「離身童子」として弔われています。



6 源聖寺坂(天王寺七坂)
登り口に源聖寺があるので、その名を取っています。天王寺七坂のひとつで、口縄坂と並び上町台地の代表的な坂です。坂を上った辺りは戦前は長屋が並び、「ガタ口横町」と呼ばれ、織田作之助の「夫婦善哉」の舞台にもなりました。

7 生國魂神社(西鶴、米沢彦八、浄瑠璃神社など)
神武天皇が九州より難波津に上陸した際、現在の大阪城付近(上町台地の北端)に生島大神、足島(たるしま)大神を祀ったのが創祀と伝えられ、宮中の例祭にあたって神祇官から幣帛が授けられた最高の待遇を受けた神社でした。「生國魂造」といわれる他に例のない建築様式でも知られています。上方芸能に深いゆかりがある神社で、境内にある西鶴翁像は、延宝8年(1680)5月に「生玉神社南坊」で井原西鶴が一昼夜で独吟四千句を興行したことを記念したものです。「南坊」の所在跡に座っていて、現在の世を面白おかしく眺めています。米沢彦八の碑もありますが、彦八は元禄期に生玉境内で仕方物真似と小咄(世にいう彦八咄)を始めて人気を得ました。「軽口大矢数」などの軽口本も残っていて、上方落語の祖として、毎年9月に「彦八まつり」が開催されます。また浄瑠璃神社もあって、近松門左衛門や竹本義太夫など人形浄瑠璃に功のあった「浄瑠璃七功神」をはじめ、文楽および女義太夫の物故者を祭神として祀っています。

8 真言坂(天王寺七坂)
生國魂神社の神宮寺であった生玉十坊のうち、この坂付近にあった六坊がすべて真言宗だったことが名称の由来です。六坊には弘法大師の御影堂があり、明治の廃仏毀釈でなくなるまで、浪華大師巡りの礼所として賑わいました。

9 大連寺(吉本芸人の墓)
天文19年(1550)に將軍・足利義晴の三男坊・晴齋上人によって、足利家の大坂祈願所として創建されました。近世から大規模な寺子屋が開かれ、明治以降は高津小学校や天王寺中学校(現高校)の発祥の地にもなりました。吉本興業の創始者・吉本せい、数ある芸能の中でも芸人が卑下されることを嘆いて「亡くなった芸人さんの供養塚があったらなあ」と生前よく言っていたので、その遺志を継いで、実娘が1993年に建てた「吉本芸人の墓」があります。

11 浄国寺(夕霧太夫墓所)
1560年開創の風格ある古刹。この弥勒菩薩様は両手を掛ける珍しい姿で、室町時代の円仁作で、重要文化財に指定されています。また3メートル程ある大きな「まんおし地蔵さん」も有名で、「マンが悪い(運の流れが悪い)」ときに、流れを変えてくれます。ここにあるのが、遊女・夕霧太夫の墓です。遊女には、太夫、天神、鹿子位、端女郎の位階があって、夕霧は歴史上もっとも有名な太夫として名を馳せました。本名はお照と言ひ、京都・東山の生まれで、嶋原の扇屋に抱えられていたが、扇屋が大坂新町に引越したときに夕霧もやってきました。このとき19歳と伝います。「神代このかた、また類なき御傾城の鏡」(西鶴「好色一代男」)と称されるほどの美形で「しとやかな格好で肉つきよく、地顔でも色白く、すがめでも情深く、酒も飽かず飲み、歌ふ声もよく、琴三味線に通じ、文句気高く、長文書き、物ねだりせず、人に惜しまず、手管に長けて、浮名が立つと止めさせ、のぼせあがると理をつけて遠ざかり、身を思ふ者には世間のことを意見し、女房のある者には合点させ、魚屋、八百屋までよこばせたり」といいます。吉原の高尾、嶋原の吉野と並んで天下の三大名妓といわれるようになりましたが、大坂へ来て6年後、延宝6年(1678年)の正月6日に病に倒れて、25歳の短い一生を終えました。亡くなった時は大坂中が悲しんだと言われ、鬼貫が「この塚は柳なくともあわれなり」という句を送り、歌舞伎では坂田藤十郎が「夕霧名残の正月」を舞台にかけ、33回忌には近松門左衛門が浄瑠璃「夕霧阿波鳴渡」を書き、その名を不朽のものとししました。

10 応典院(シアター)
一般的な仏事ではなく、かつてお寺が持っていた地域の教育文化の振興に関する活動に特化した、(気づき、学び、遊び)をコンセプトとした地域ネットワーク型寺院です。円形型ホール仕様の本堂をはじめ、セミナールームや展示空間を備えており、演劇活動や講演会など様々な活動に用いられています。また、應典院寺町倶楽部の拠点施設として、コモンズフェスタや寺子屋トークが行われ、玄関ホールは文化情報の発信および人々の交流の場として機能しています。

大阪あそ歩のコースは約2~3km、2~3時間程度を基準として作成されています。